

彙報

○平成二十四年度講義題目

〔大学院〕

日本文学研究の方法(1)(2)

坪井教授

塩村教授・阿部教授

日本語研究上の諸問題A・B

釘貫教授・齋藤教授

宮地准教授

日本語学概論A・B

日本語文法研究の諸問題A・B

宮地准教授

条件表現の史的展開

矢島正浩講師(非)

日本語はいかにして活字に載せられたか

鈴木広光講師(非)

西鶴研究(1)(2)

大井田准教授

日本精神史

阿部教授

王朝物語の諸問題(1)(2)

大井田准教授

宗教テクスト学講義

阿部教授

明治期の文学と出版文化

甘露純規講師(非)

法会

阿部教授

源氏物語と和歌

久富木原玲講師(非)

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習―花祭

阿部教授

徒然草研究(1)(2)

塩村教授

太子伝研究―太子絵伝絵解き実習

阿部教授

中世人の連想の世界(1)(2)

塩村教授

太子伝研究―太子伝を読む

阿部教授

源氏物語演習(1)(2)

大井田准教授

日本思想史演習

阿部教授

王朝文学演習(1)(2)

塩村教授

宗教テクスト学実習―大須文庫調査研究

阿部教授

日本書誌学研究(1)(2)

釘貫教授

日本中世文化研究

阿部教授

日本語史の研究

釘貫教授

日本語文化入門(1)(2)

齋藤教授

『天草版平家物語』研究

宮地准教授

日本語文化の諸問題(1)(2)

齋藤教授

翻訳表現の研究(1)(2)

齋藤教授

占領期文学研究 1951 - 1952

坪井教授

占領期文学研究

坪井教授

近代日本の思想

坪井教授

文学研究とポストコロナリアル

日比准教授

近代と近代批判の諸相(1)

坪井教授・齋藤教授他

近代と近代批判の諸相(2)

坪井教授・齋藤教授

視覚文化理論研究

日比准教授他

テクスト布置解釈学原論

坪井教授

テクスト布置解釈学各論 I

釘貫教授他

テクスト布置解釈学各論 II

宮地准教授他

釘貫教授他

釘貫教授他

〈学部〉

日本書誌学研究(1)(2)

塩村教授

西鶴研究(1)(2)

塩村教授

王朝物語の諸問題(1)(2)

大井田准教授

明治期の文学と出版文化

甘露純規講師(非)

源氏物語と和歌

久富木原玲講師(非)

日本近現代文学の研究手法

瀬崎圭二講師(非)

徒然草研究(1)(2)

塩村教授

中世人の連想の世界(1)(2)

塩村教授

源氏物語演習(1)(2)

大井田准教授

日本語史の研究

釘貫教授

日本語学概論 A・B

宮地准教授

条件表現の史的展開

矢島正浩講師(非)

日本語はいかにして活字に載せられたか

鈴木広光講師(非)

万葉集を読む

釘貫教授

本居宣長『玉あられ』研究

釘貫教授

『天草版平家物語』研究

宮地准教授

日本語文法研究の諸問題 A・B

宮地准教授

日本語研究上の諸問題 A・B

釘貫教授・齋藤教授

宮地准教授

日本精神史

阿部教授

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習―「善徳寺虫

干法会」を聴聞する 阿部教授

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習―「花祭」に

参加する 阿部教授

太子伝を解く―絵解き実習 阿部教授

太子伝を読む―『正法輪蔵』研究 阿部教授

日本文化入門 阿部教授

日本語文化入門 I・II 齋藤教授

占領期文学研究1951—1952

坪井教授

占領期文学研究

坪井教授

近現代日本文学で考える〈日本〉の姿

日比准教授

○平成二十四年度春季大会

日時 七月十四日(土) 午後二時～五時

場所 名古屋大学文学部共同1A B講義室

シンポジウム「法楽和歌とは何か」

パネリスト

兼築信行(早稲田大学教授)

「建仁元年後鳥羽院熊野御幸和歌会をめぐって」

丸山陽子(フェリス女学院大学非常勤講師)

「伊勢新名所絵歌合―時代背景と神仏への信仰

から見る法楽和歌」

パネリスト兼司会

深津睦夫(皇學館大学教授)

「〈法楽和歌〉の成立と展開」

デイスカッサント

阿部泰郎

「賀茂社における法楽和歌と唱導―賀茂重保と

澄憲」

総会

懇親会 午後六時～八時 グランピアット山手通店

○平成二十三年度卒業論文

『新釈諸国噺』の素材と手法の研究 足立菜々

『俳諧類船集』研究―「笑」に関する項目を中心に― 伊藤茉莉

中世物語文学における「光」の表現について 奥脇かなみ

森茉莉「甘い蜜の部屋」論 後藤有紀

『源氏物語』における「鏡」 所 敬子

『本朝二十不孝』論―親子の相互関係について 水鳥はな

『源氏物語』の六条御息所 何 家華

現代語における接頭辞「脱」の用法 神谷明日香

室町時代末期・近世の上方資料における否定表現

―「ずして」「で」「いで」をめぐって― 佐野友紀

派生動詞の意義範囲とその変化

―「うつる」「うつろふ」の比較を通して―

杉浦麻理江

明治・大正期におけるサ行変格活用動詞＋受身・使役

表現 寺尾香里

杉浦麻理江

寺尾香里

寺尾香里

役割語としての終助詞「ぜ」

西内美早

○平成二十三年年度修士論文

『狭衣物語』研究

民家春菜

半井桃水『胡砂吹く風』研究

丁 恩恵

『源氏物語』における「身のほろ」

明石君を中心に MYERS MICHELLE KUHN

現代語「ばかり」の用法の多様性について 朱 琳

現代日本語・トルコ語における形容詞性重複形の対照

研究 CIFTCI UMMUHAN

○平成二十四年度秋季大会

日時 十二月八日(土)午後二時～五時

場所 名古屋大学文学部二二七講義室

内容〈講演〉

「王朝女性文化と武家文化」 高橋 亨

〈研究発表〉

『西鶴諸国ばなし』内題「大下馬」の意味

堅田陽子

「日本語教育における五十音図の役割—シン

ハラ語ホーディアとの比較対照—」

Atanayake Priyantika

懇親会 午後六時～ グランピアット山手通店

〈論文博士〉

漢文訓読と近代日本語の形成

齋藤文俊

平安後期物語の研究—『夜の寝覚』・『狭衣物語』—

乾 澄子

○本誌への投稿をお待ちしています。投稿規定は次の通りです。

*投稿資格 本学会員

*枚数

出上来がり原稿にて一四頁（縦書きは

二十五字×二十二行×二段組／頁、横

書きは三十七字×三十行／頁）以内を

厳守。但、審査の過程で加筆の必要が

生じ、結果として掲載時に一四頁を超

過する場合もある。

*原則としてメール添付による入稿とする。ただし、

メール添付に不都合がある場合、フロッピーディス

ク等の電子媒体による入稿も可とする。

手書き原稿の場合は事務局にご相談下さい。

*原稿の採否は編集委員の採否を経て運営委員会が決

定する。

*原稿の採否の問い合わせには応じない。

*投稿原稿は返却しない。

*投稿の際、原本一部、コピー二部、計三部それぞれ

に要旨（二百字程度）を添えて提出のこと。

（入稿規定）

一、データはワード文書もしくはテキストファイル形式を原則とする。

二、論文と要旨は別ファイルとすること。

三、入稿に際しては、メール添付の論文ファイル・要

旨ファイルのほか、必ずプリントアウトした原稿を

三部提出すること。特殊文字・罫線等や割付けは、

この原稿にしたがって版を組む。

四、採用の場合、校正編集補助費として、原稿一本に

つき五千円徴収いたします。

五、審査はプリントアウトした完成原稿によって行う。

付記、次号（百六号）の締切は二〇一三年五月九日

です。

メール送付先

machiko@lit.nagoya-u.ac.jp

○編集委員（五十首順）

阿部泰郎・大井田晴彦・釘貫 亨・齋藤文俊・榊原千

鶴・塩村 耕・坪井秀人・日比嘉高・宮地朝子

○本号の刊行に際しての実務担当委員は次の方々です。

足立奈々・菊間美帆・櫻井 豪・寺尾香里・所 敬子・

樋口千紘・眞野道子・川辺瑞絵